

平成20年度VUV・SX高輝度光源利用者懇談会 総会議事録

1. 日時：平成21年1月11日（日）12：00～13：00
2. 会場：東京大学本郷キャンパス 小柴ホール
3. 出席者：28名（委任状は35通で総会は成立）
4. 配布資料：
東京大学アウトステーション・物質科学ビームラインの共同利用
5. 報告・議事
 - 1) 議長に木下豊彦氏（高輝度光科学研究センター）を選出した。
 - 2) 吉信淳会長（東大物性研）より、平成20～21年度の幹事紹介と平成20年度の活動報告が行われた。活動内容として、平成21年度から始動予定のSPRING-8での東大アウトステーション計画・共同利用体制の構築、ニュースレターNo.16の発行（平成20年8月）、アウトステーション計画の実施を前にした会費、会員の見直しの可能性などが報告された。
 - 3) 間瀬一彦会計委員長（KEK）より、平成20年度会計報告が行われた。また、来年度より賛助会員を募集する方向で検討することが提案された。
 - 4) 東京大学アウトステーション計画について、以下のとおり報告された。
 - ・尾嶋正治放射光連携研究機構長より、SPRING-8にて据付けが完了したアンジュレータの現状、機構の組織、全国共同利用・国際共同研究について報告された。
 - ・柿崎明人放射光連携研究機構物質科学部門長より、平成21年9月の放射光実験開始に向け、調整・保守が進んでいることが補足された。
 - ・松田巖氏（東大物性研）より、物質科学ビームライン・フリーポートでの実験ステーション案が紹介され、1月中にフリーポートの仕様を固める予定であることが報告された。
 - 5) 大門寛計画委員長に代わり吉信会長より、東京大学アウトステーション・物質科学ビームラインの共同利用として、共同利用実験申請課題の募集・課題の審査・研究利用経費のサポート・実験結果の報告等について、利用者懇談会からの要望が提案され、承認された。
 - 6) 吉信会長より、今後の方針として以下が確認された。
 - ・今回承認された共同利用体制についての要望を東京大学放射光連携研究機構に提案する。
 - ・申請課題の審査委員を当懇談会より4名推挙する。
 - ・会員の見直しと再構築・会費の導入について議論を始める。
 - 7) 総会において会員から以下の様な意見があった。
 - ・会員の見直しに関しては、SPRING-8のアウトステーション利用者だけに限ること無く、今までに集まった会員を大切にしてほしい。
 - ・利用者懇談会が推薦する申請課題審査委員は、ヘビーユーザーだけに限らずバランスをとってほしい。

（議事録：事務局）